

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2018.12.5

No.454



2018年冬のボーナス調査

株式会社青森銀行と一般財団法人青森地域社会研究所では、県内の給与所得者を対象に毎年夏・冬の2回、「ボーナスと最近の暮らし向き調査」を実施しております。本調査は県内のボーナスの受給状況や使いみち、また現在の暮らし向きなどを探ることを目的としており、ここではその結果についてお伝えします。

調査の概要

ボーナスの伸びについて期待指数の推移をみると、県内経済の緩やかな回復傾向などを背景に、緩やかながら回復傾向が続いている。民間、40代、50代など一部に鈍さがみられるものの、全体的に改善傾向がうかがわれる。2018年冬の期待指数は昨年冬に比べ2.1ポイント上昇し、53.8となった。

2018年冬のボーナス受給見込額は、平均で昨年冬の需給実績を2千円上回る37万2千円となった。受給見込額への満足感については公務員、20代などで高かったものの、50代では厳しい見方となった。

最近の暮らし向き調査では、「良くなった」とする割合が0.9ポイント増加し、「悪くなった」とする割合は0.1ポイント増加した。この結果、暮らし向き指数は46.6となり、2018年夏に比べて0.5ポイント上昇した。暮らし向きについては緩やかではあるが改善が続いている。

この冬の御歳暮については贈る「予定あり」が全体の31.8%となり、昨年冬に比べ4.8ポイント増加した。一方、昨年と比べた贈る先数については「減る」が「増える」を上回った。

年賀状の差出状況については「予定あり」が全体の73.3%となった。20代では50.2%であったが50代では86.6%と年代が進むにつれて高い割合となった。

1. 2018年冬のボーナス調査

(1) ボーナスの伸びについて

- ・期待指数は53.8、昨年冬に比べ2.1ポイント上昇
- ・一部で鈍さがみられるものの、全体的に改善傾向

今冬のボーナスの伸びは前年同期に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「悪くなる」、「変わらない」の三つの選択肢で回答してもらった。

冬のボーナスの伸びについて期待指数(1図、注記参照)について2007年からの推移をみると、2009年にはリーマンショックの影響から大幅な落ち込みがみられた。しかし、2014年以降はアベノミクスの影響や県内経済の緩やかな回復傾向などから「良くなる」割合が「悪くなる」を上回って推移しており、小幅ながら改善傾向が続いている。

今回調査では「良くなる」との回答は、2017年冬に比べ0.2ポイント増加の16.5%、「悪くなる」が同3.9ポイント減少の9.0%、「変わらない」が同3.7ポイント増加の74.5%となった。この結果、ボーナスの伸び

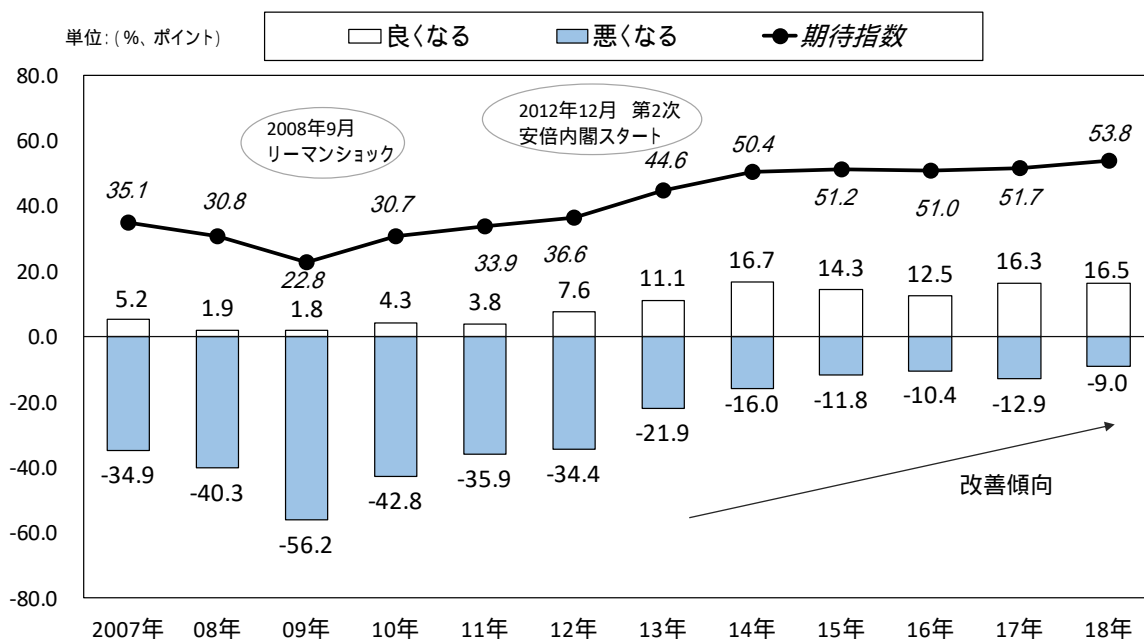
に対する期待指数は、昨年冬に比べて2.1ポイント上昇の53.8となり、5期連続で50.0を上回った。

年代・属性別にみると、男性、独身、既婚、公務員、20代、30代で「良くなる」割合が「悪くなる」を上回った。期待指数が高かったのは、公務員(61.6)、20代(59.2)、男性(53.8)であった。

今冬の期待指数は民間、40代、50代で鈍さがみられるものの、公務員、20代などで高い数値となり、全体的に改善傾向がうかがわれる。

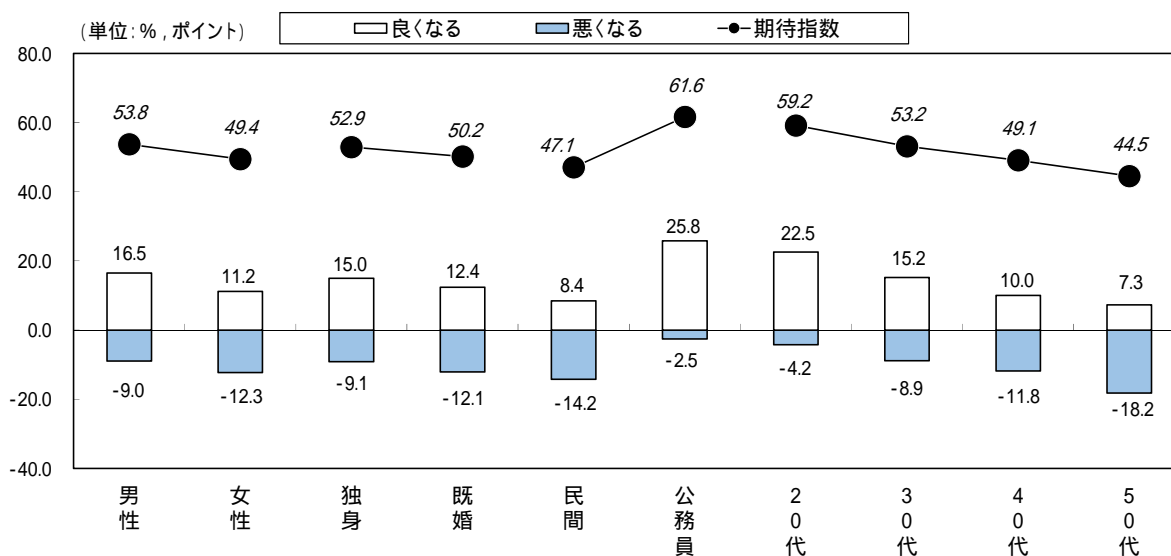
(以上、1、2図参照)

(1図) 冬のボーナスの伸び 期待指数の推移



* 期待指数 = 「良くなる」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなる」×0.0

(2図) ボーナスの伸び



* 指数は「良くなる」×1.0+「変わらない」×0.5+「悪くなる」×0.0

(2) ボーナス支給見込額

- ・平均 37 万 2 千円、昨年冬を 2 千円上回る
- ・支給見込額への満足感は 50 代で厳しい見方

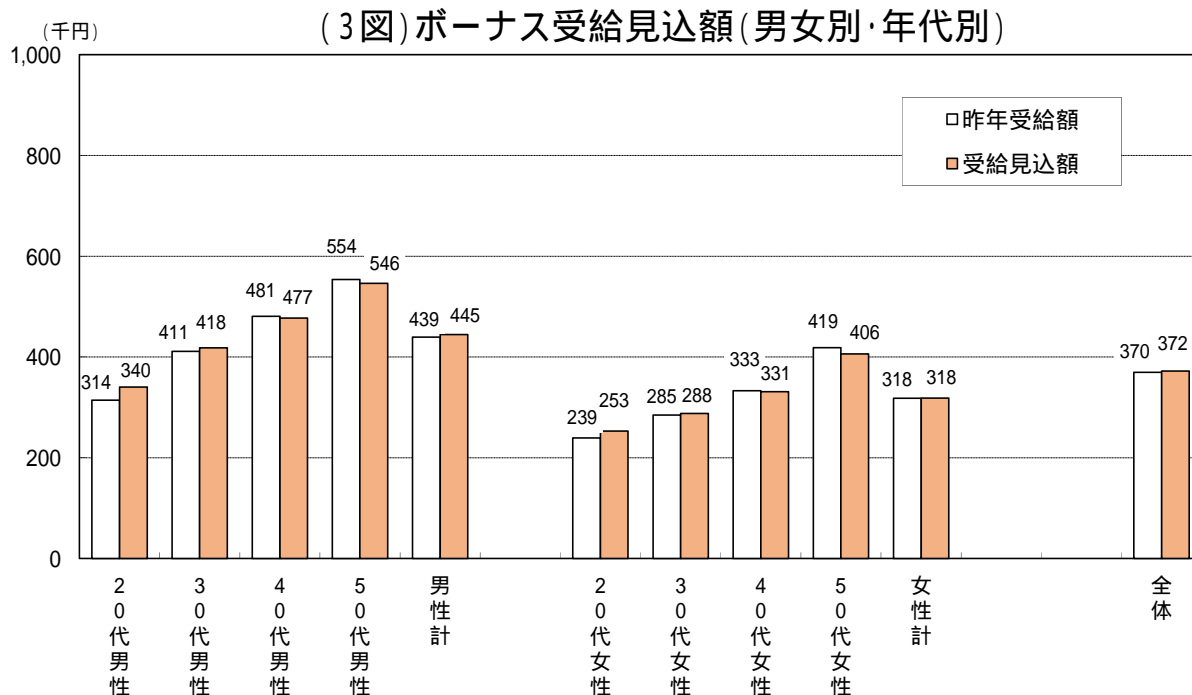
県内給与所得者が予想する今冬のボーナス支給見込額は、平均で 37 万 2 千円となり、回答者の昨年冬の支給実績(平均 37 万円)を 2 千円上回った。これを男女別・年代別にみると、最も見込額が大きかったのは 50 代(60 歳以上を含む、以下同じ)男性の 54 万 6 千円、次いで 40 代男性の 47 万 7 千円、30 代男性の 41 万 8 千円などの順となった。また、20 代(20 歳未満を含む、以下同じ)女性、30 代女性は 30 万円を下回った。

男女別の平均見込額を比較すると、男性

が 44 万 5 千円、女性は 31 万 8 千円となり、男性が女性を 12 万 7 千円上回った。

年代別に今冬の見込額と昨年冬の支給実績額との開きをみると、男性、女性とも 20 代、30 代で昨年冬の支給額を上回った。開きが大きかったのは 50 代女性(1 万 3 千円)、20 代男性(+2 万 6 千円)、20 代女性(+1 万 4 千円)であり、他の年代は 1 万円未満にとどまった。

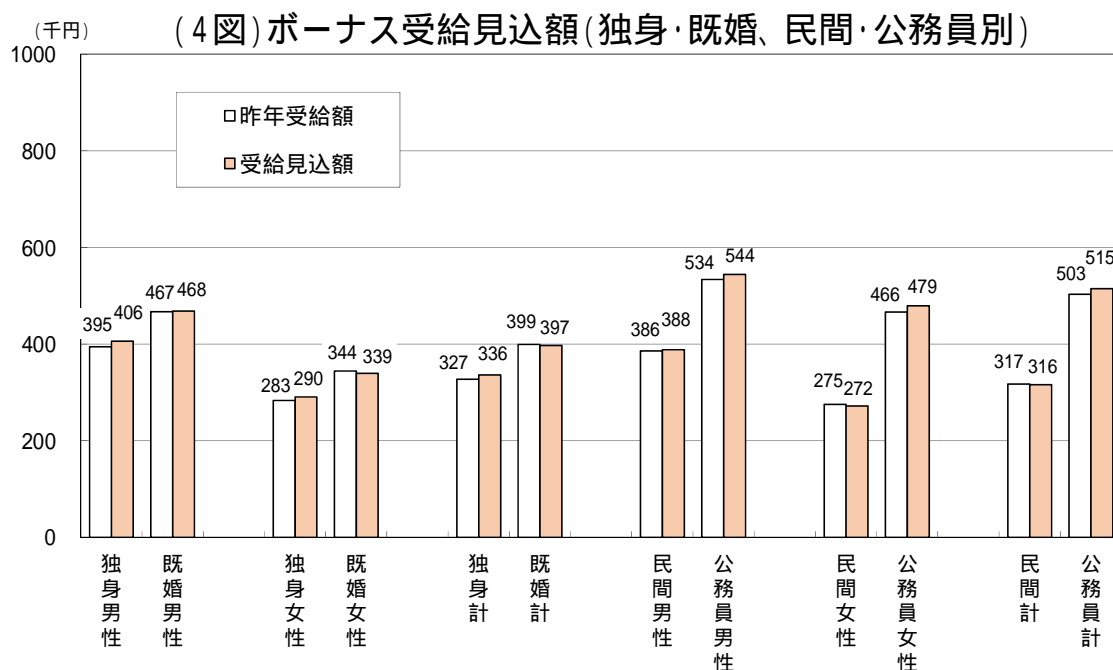
(以上、3 図参照)



受給見込額を独身・既婚別にみると、独身者が33万6千円、既婚者が39万7千円となった。昨年冬の受給実績に比べ独身者が9千円上回り、既婚者は2千円下回った。

また、民間・公務員別では、民間が31万6千円、公務員が51万5千円となった。昨年冬の受給実績額に比べ民間が1千円下回り、公務員は1万2千円上回った。

(以上、4図参照)



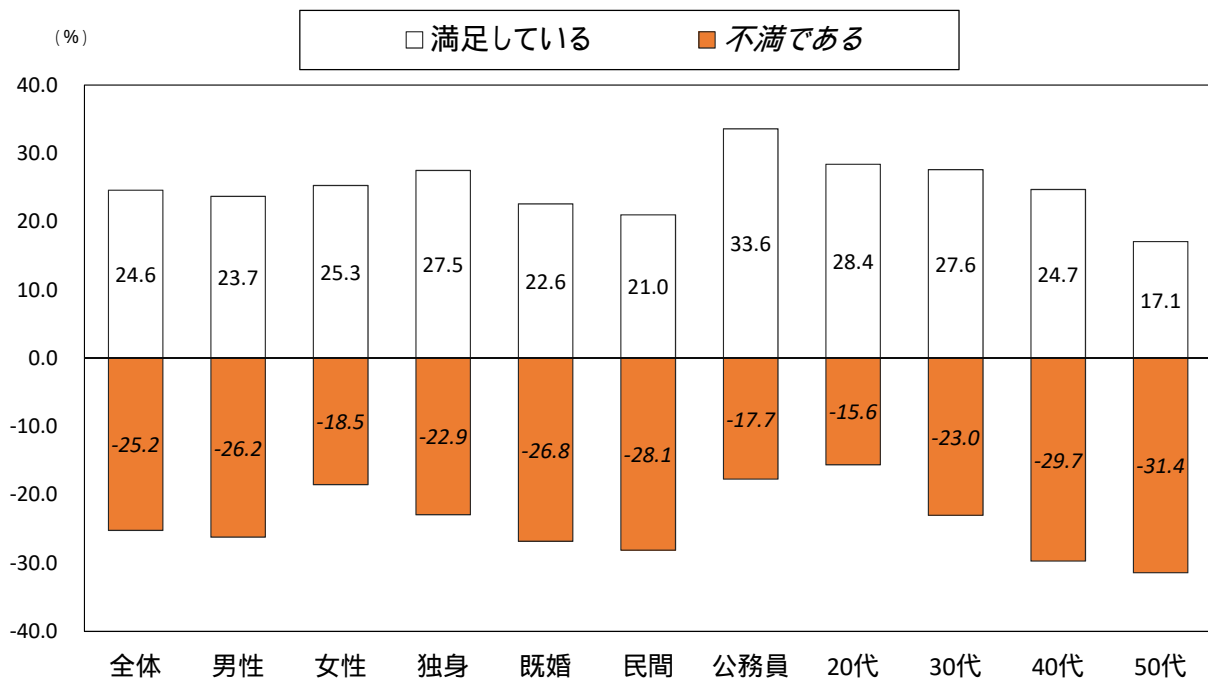
次に、今回の受給見込額についての満足感を尋ねてみた。全体では「満足している」が 24.6%、「不満である」が 25.2%、「どちらともいえない」が 50.2%となり、「満足」と「不満」はほぼ同数であった。

属性別にみると「満足」の割合が高かったのは、女性、独身、公務員、20代、30代であり、特に公務員は 33.6%と高い数値を

示した。一方、「不満」が高かったのは、男性、既婚、40代、50代であった。特に50代は属性の中で唯一「不満」が3割を超え、「満足」も2割を下回っており、受給見込額について厳しい見方をしている状況がうかがわれた。

(以上、5図参照)

(5図) ボーナス支給見込額について満足しているか



(3) ボーナスの希望額

・ボーナス希望額は平均 50 万 2 千円

今冬のボーナス希望額は、平均で 50 万 2 千円となり、平均受給見込額 37 万 2 千円円との間に 13 万円の開きがみられた。男女別の平均希望額を比較すると、男性が 59 万 5 千円、女性は 43 万 3 千円となり、男性が女性を 16 万 2 千円上回った。

年代別・男女別の平均希望額をみると、50代男性が 71 万 8 千円でトップとなり、以下、50代男性の 65 万 7 千円、30代男性

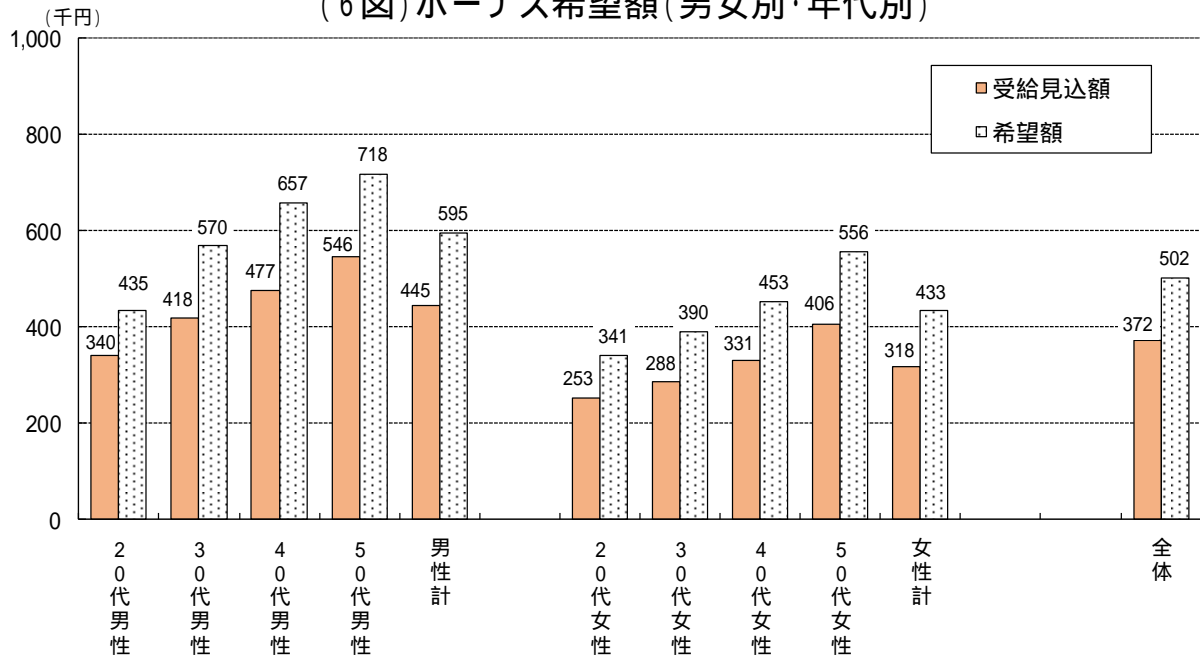
の 57 万円などと続いた。

希望額と受給見込額との開きを年代別にみると、40代男性が 18 万円以最大きかった。

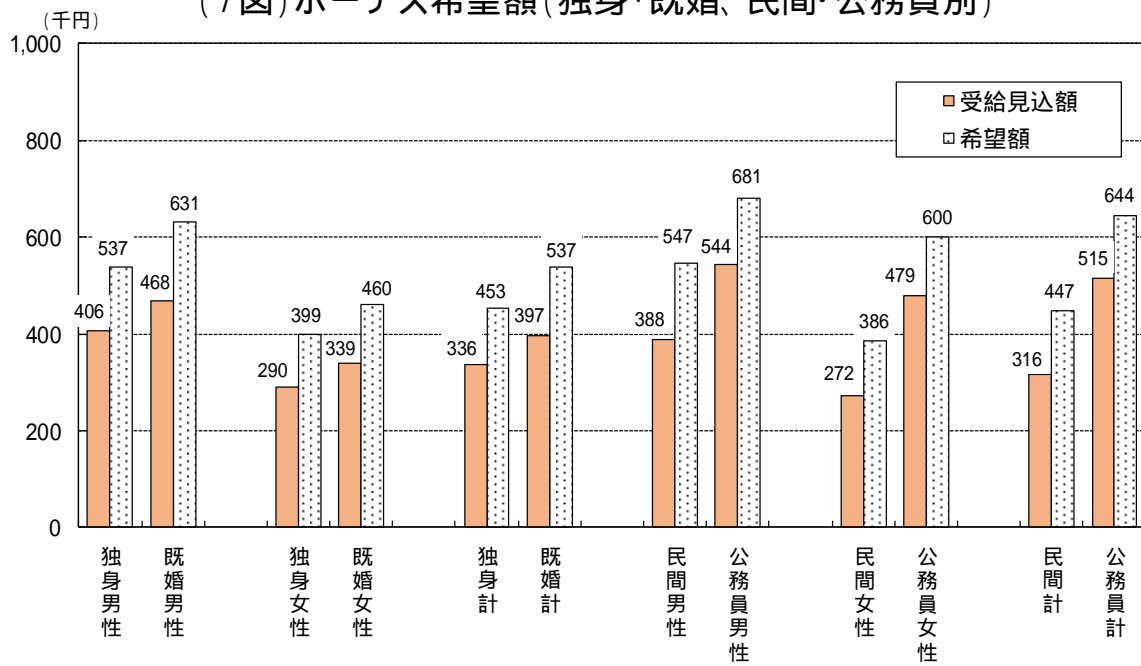
独身・既婚別にみると、既婚者は独身者に比べ開きが大きかった。また、民間・公務員別では民間が公務員に比べ幾分開きが大きかった。

(以上、6、7図参照)

(6図) ボーナス希望額(男女別・年代別)



(7図) ボーナス希望額(独身・既婚、民間・公務員別)



(4) ボーナスの使途計画

・消費・返済割合が減少、貯蓄割合は増加の傾向

今冬のボーナスの使途計画は、「消費」が37.3%、「貯蓄」が49.5%、「返済」が13.2%の割合となった。昨年冬と比べると「消費」割合が0.3ポイント減少、「貯蓄」割合が0.5ポイント減少、「返済」割合が0.8ポイント増加と大きな違いはなかったが、2015年からの推移をみると、「消費」、返済」が減少傾向、「貯蓄」増加傾向にある。

男女別にみると、男性は「返済」、女性は「貯蓄」が高く、「消費」はほぼ同じであった。独身・既婚別では、独身者は「消費」、既婚

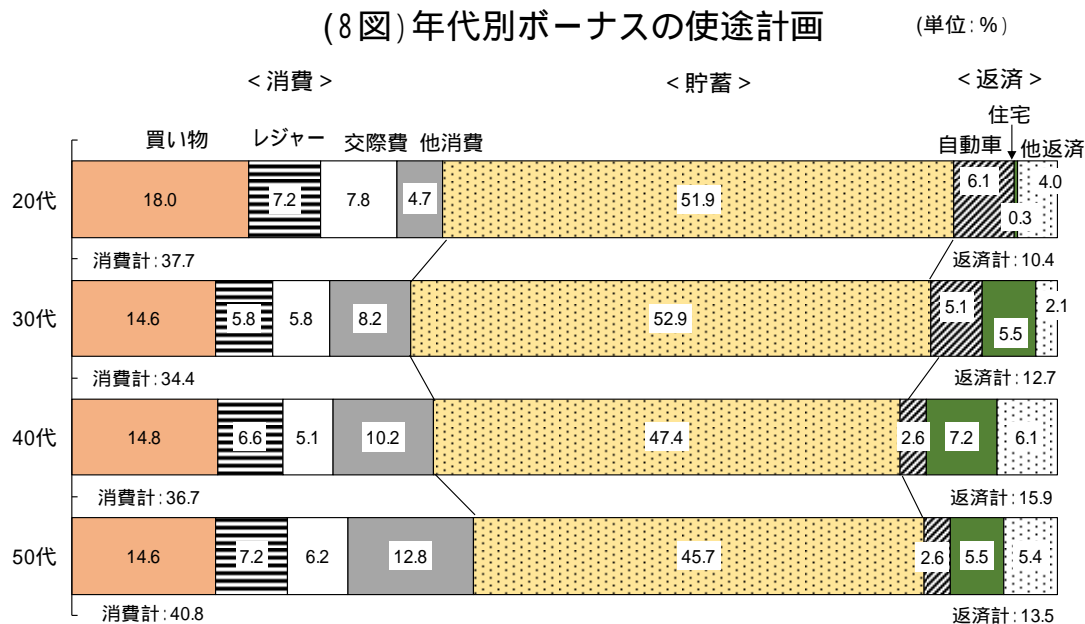
者は「返済」が高く、「貯蓄」はほぼ同じであった。民間・公務員別では、民間は、「消費」、貯蓄」が高く、公務員は「返済」が高かった。

年代別にみると、「消費」割合は50代が40.8%と最も高かった。「貯蓄」割合は30代が52.9%で最も高かった。「返済」割合は40代の15.9%が最も高く、自動車ローンの割合は20代、住宅ローンは40代が高かった。(以上、1表、8図参照)

(1表) ボーナスの使途計画

	消費割合					貯蓄割合	返済割合			
	買い物	レジャー	交際費	その他	自動車		住宅	その他		
男性	37.2	14.2	6.9	6.9	9.2	47.3	15.5	5.3	5.9	4.3
女性	37.3	16.4	6.5	5.6	8.8	51.2	11.5	3.1	3.9	4.5
独身者	39.8	17.1	6.8	8.4	7.5	50.0	10.2	4.8	1.7	3.7
既婚者	35.4	14.3	6.6	4.5	10.0	49.1	15.5	3.6	7.1	4.8
民間	39.0	15.9	6.9	6.4	9.8	49.1	11.9	3.8	4.2	3.9
公務員	33.1	14.4	6.1	5.5	7.1	50.4	16.5	4.8	6.1	5.6
2018年冬計	37.3	15.5	6.7	6.1	9.0	49.5	13.2	4.1	4.8	4.3
2017年冬計	37.6	15.8	6.4	6.2	9.2	50.0	12.4	4.0	4.4	4.0
2016年冬計	38.0	18.2	6.7	6.8	6.3	47.5	14.5	4.5	6.6	3.4
2015年冬計	40.1	18.4	6.8	6.3	8.6	44.8	15.1	4.5	6.2	4.4

(8図) 年代別ボーナスの使途計画



(5) 貯蓄の目的

・「安心だから」がトップ、「老後の備え」、「教育」と続く

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が44.6%で最も高く、以下「老後の備え」が32.9%、「教育」が26.6%などと続いた。

昨年冬との比較では「老後の備え」の2.9ポイント減少、「耐久消費財」の2.2ポイント増加が目立った。

男女別にみると、男性は「住宅」、「耐久消費財」の割合が高かった。女性は「旅行」、

「老後の備え」の割合が男性を上回った。

独身・既婚別にみると、独身者はトップの「安心だから」が既婚者に比べ20.2ポイント高く、次いで「老後の備え」、「旅行」、「結婚」と続いた。一方、既婚者は「教育」がトップとなり、「老後の備え」、「安心だから」、「旅行」と続いた。

(以上、2表参照)

(2表) 貯蓄の目的

					(単位: %)		
	男性	女性	独身	既婚	2018年冬計	2017年冬計	2016年冬計
住宅	14.1	9.6	6.6	15.5	11.6	11.0	8.7
教育	(3) 27.3	26.1	7.7	(1) 41.5	(3) 26.6	(3) 26.7	(3) 27.1
結婚	5.5	5.8	12.6	0.2	5.7	7.1	7.3
旅行	16.3	(3) 27.1	(3) 25.2	20.2	22.4	20.7	18.5
耐久性消費財	14.1	6.4	9.6	9.9	9.8	7.6	11.6
病気の備え	9.1	10.9	11.5	9.0	10.1	11.1	11.2
老後の備え	(2) 30.1	(2) 35.0	(2) 27.4	(2) 37.2	(2) 32.9	(2) 35.8	(2) 34.8
安心だから	(1) 46.4	(1) 43.2	(1) 55.9	(3) 35.7	(1) 44.6	(1) 44.4	(1) 39.7

2. 最近の暮らし向き調査

・緩やかながら暮らし向きは改善傾向

まず、「昨年今の頃と比べて最近の暮らし向きはいかがですか」との問いに対しては、2018年夏に比べ「良くなった」とする回答が0.9ポイント増加の7.0%、一方、「悪くなった」は0.1ポイント増加の13.9%となり、「変わらない」は1.0ポイント減少の79.1%となった。この結果、「現在の暮らし向き指数」(3表、注記参照)は46.6と、2018年夏に比べ0.5ポイント上昇した。

「悪くなった」とする割合が2期連続で増

加したものの、暮らし向き指数はこのところほぼ横ばいで推移している。7期連続で45.0を上回っており、緩やかではあるが暮らし向きの改善が続いている。

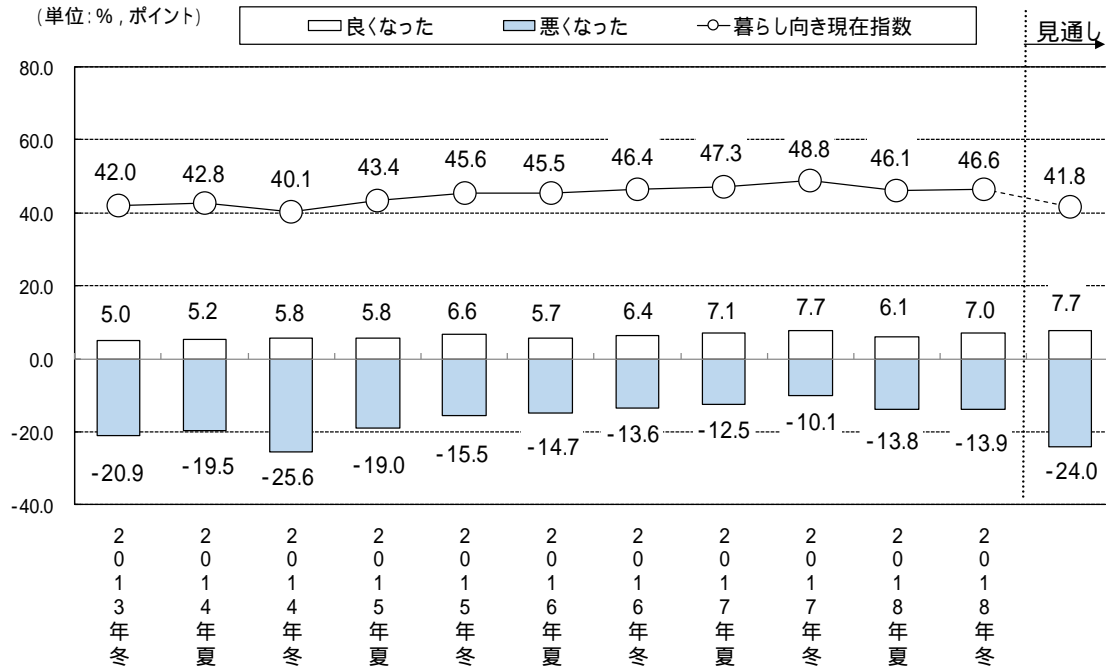
年代別、属性別にみると、「良くなった」とする割合が「悪くなった」を上回ったのは、20代、公務員であった。他の属性では「悪くなった」が「良くなった」を上回ったものの、各属性とも2018年夏と大きな違いはみられなかった。

次に「1年後の暮らし向きはどうかと考えますか」との問いに対しては、現在に比べ「良くなる」割合が0.7ポイント増加の7.7%、「悪くなる」は10.1ポイント増加の24.0%と

なった。この結果、「今後の暮らし向き指数」は41.8となり、「現在の暮らし向き指数」を4.8ポイント下回った。

(以上、9図、3表参照)

(9図) 暮らし向き指数の推移



(3表) 現在の暮らし向きについての見方(属性)

(単位: %, ポイント)

	現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後	
	良くなった	良くなる	変わらない	変わらない	悪くなった	悪くなる	指数	指数
男性	7.0	9.9	79.6	68.5	13.5	21.6	46.8	44.1
女性	7.1	6.0	78.7	68.1	14.2	25.8	46.4	40.1
独身	10.0	9.7	79.1	72.8	10.9	17.5	49.5	46.1
既婚	4.9	6.2	79.0	65.0	16.0	28.8	44.5	38.7
民間	6.0	7.0	77.7	65.9	16.3	27.1	44.9	40.0
公務員	9.7	9.3	82.4	74.3	7.9	16.4	50.9	46.4
20代	12.9	12.4	81.3	77.8	5.8	9.8	53.6	51.3
30代	9.4	12.7	78.3	65.2	12.3	22.1	48.6	45.3
40代	4.2	3.8	81.2	72.4	14.6	23.8	44.8	40.0
50代	2.2	2.2	75.0	57.0	22.8	40.8	39.7	30.7
全体	7.0	7.7	79.1	68.3	13.9	24.0	46.6	41.8

注) 現在指数 = 「良くなった」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなった」×0.0

今後指数 = 「良くなる」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなる」×0.0

3. この冬の御歳暮事情について

・贈る「予定あり」は31.8%、昨年冬に比べ4.8ポイント増加

ボーナス調査に併せて、この冬の御歳暮について調査した。御歳暮を贈る予定については、全体の31.8%が「予定あり」としており、昨年冬(27.0%)に比べ4.8ポイント増加した。2002年からの推移をみると、「予定あり」の割合は2002年には46.0%と半数近くを占めていたが、その後は減少傾向で推移している。2016年には3割を下回ったが2018年は3年ぶりに3割を超えた。

属性別にみると、独身・既婚別では、「予定あり」が独身者は15.0%、既婚者は43.9%となった。「予定あり」を年代別にみると、20代は8.0%であるが、50代では

58.5%となり、年代が進むにつれて割合が高くなっている。

お歳暮を贈る先数については「増える」割合が5.4%、「減る」が18.1%、「変わらない」が76.5%となった。ほとんどの属性で「減る」が「増える」を上回ったが、20代は同率となった。

今年のお歳事情については、贈る予定については増加がみられたものの、先数については「減る」が「増える」を上回っており、全体に厳しい状況がうかがわれる。

(以上、4表、5表、10図参照)

(4表) お歳暮を贈る予定

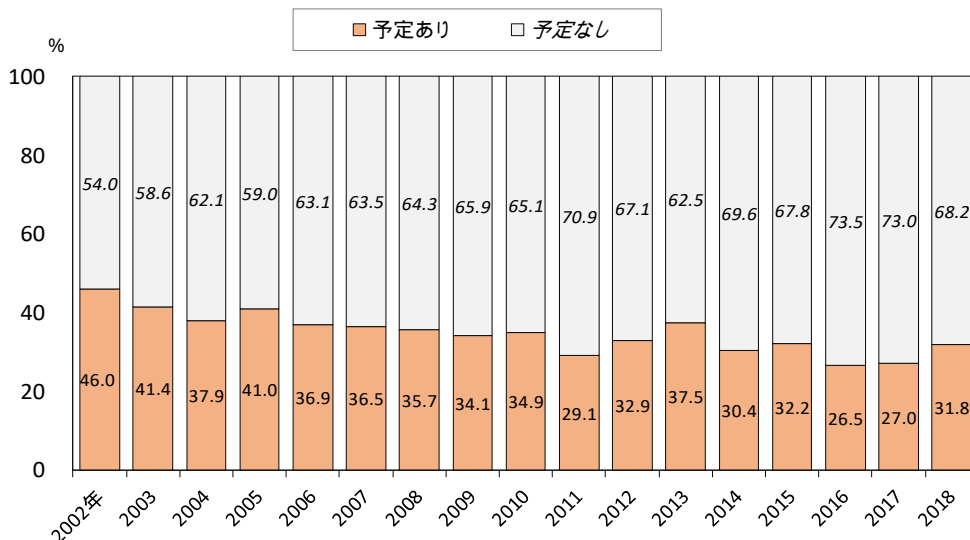
	(単位:%)	
	予定あり	予定なし
独身	15.0	85.0
既婚	43.9	56.1
20代	8.0	92.0
30代	25.4	74.6
40代	35.1	64.9
50代	58.5	41.5
全体	31.8	68.2

(5表) お歳暮を贈る先数(昨年比)

	(単位:%)		
	増える	変わらない	減る
独身	4.9	66.7	28.4
既婚	4.3	79.5	14.9
20代	14.3	71.4	14.3
30代	9.9	70.4	19.7
40代	4.4	77.0	18.6
50代	2.8	79.9	17.4
全体	5.4	76.5	18.1

「予定あり」及び「予定なし」の「減る」とする回答が対象。

(10図) 「御歳暮を贈る予定」の推移



4. 年賀状の差出状況について

- ・「予定あり」は全体の 73.3%
- ・20 代の差出数は「増える」が「減る」を上回る

年賀状は正月の挨拶として定着している習慣・文化である。しかし、近年は SNS 等の利用や儀礼的な習慣の簡素化などから省略する動きもみられる。ここでは、この冬、年賀状の取扱状況について調査を実施した。

年賀状を出す予定については、全体の 73.3%が「予定あり」となった。「予定あり」を属性別にみると、独身・既婚別では、独身者が 59.0%、既婚者は 83.7%となった。年代別にみると、20代が 50.2%であったが 50代では 86.6%となり、年代が進むにつれて

高い割合となった。20代と 50代では 36.4ポイントと大きな違いがみられる。

年賀状の差出数については「増える」割合が 7.3%、「減る」が 20.4%、「変わらない」が 72.3%となった。ほとんどの属性で「減る」が「増える」を上回ったが、20代は「増える」が 24.2%となり、「減る」を 7.5ポイント上回った。

若い世代においては SNS 等での年賀挨拶が主流になりつつあるのであろうが、年賀状を見直す動きもうかがわれる。

(以上、6表、7表参照)

(6表) 年賀状の差出予定

(単位: %)

	予定あり	予定なし
独身	59.0	41.0
既婚	83.7	16.3
20代	50.2	49.8
30代	75.4	24.6
40代	79.2	20.8
50代	86.6	13.4
全体	73.3	26.7

(7表) 年賀状の差出数

(単位: %)

	増える	変わらない	減る
独身	6.3	72.2	21.6
既婚	9.3	72.5	18.2
20代	24.2	59.2	16.7
30代	8.4	74.9	16.8
40代	2.5	75.3	22.2
50代	2.0	74.0	24.0
全体	7.3	72.3	20.4

「予定あり」及び「予定なし」の「減る」を対象。

以上

調査要領

調査対象者	県内在住の給与所得者
調査時期	2018年10月下旬～11月上旬
配布・回収枚数	配布枚数 1,000枚 回収枚数 982枚（回収率98.2%）

回答者内訳

(単位:人)

属性	男性	女性	合計
20代	98	127	225
30代	96	148	244
40代	123	166	289
50代	100	124	224
独身	159	253	412
既婚	258	312	570
民間企業	259	442	701
公務員	158	123	281
合計	417	565	982

注:20代は20歳未満、50代は60歳以上を含む

【 本件に関する照会先 】

一般財団法人 青森地域社会研究所
研究員 野里和廣
TEL 017-777-1511